



植彌加藤造園株式会社 自然文化サービス

弊社が御用庭師を務める東本願寺の飛び地境内地「渉成園」では、2005年にミズアオイ開花の記録が認められますが、それ以降は記録が残っていませんでした。

2018年に13年ぶりに弊社の庭師が確認、その後京都大学の瀬戸口浩彰教授によりミズアオイと同定されました。

水葵 - ミズアオイ



絶滅寸前種
Critically Endangered



京都府レッドデータブック 2015
RED DATA BOOK OF KYOTO PREFECTURE 2015

学名: *Monochoria korsakowii*
ミズアオイ科ミズアオイ属

水田や湿地にはえる一年草の抽水植物。
多数の美しい青紫色の花をつけます。
万葉時代から主要な野菜として親しまれていましたが、近年河川・池などの開発、
農業の散布などで姿を消し、希少種として扱われています。

【13年ぶりの開花確認の経緯】

渉成園を管理している弊社庭師が、印月池の畔で見慣れない青い花を確認した為、瀬戸口教授に調査を依頼し、ミズアオイと同定されました。

この情報は [KBS 京都フェイスニュース] [京都新聞] [朝日新聞] [読売新聞] で報道されました。



結実後は袋をかけて種子の採取を行い、
発芽させる為に春化処理*を行いました。

*人為的に寒さや湿度等の条件を満たし、発芽を促す処理のこと

【育成の記録】

発芽



2019.6.19

播種後2週間程度で水中で発芽し、細い糸状の子葉が出てきます。

水中葉



2019.7.3

水中で葉が育ってきます。水深は1~2cmが生育に適しています。

気中葉



2019.7.13

しっかりした茎と細長い葉が生え、一部の葉が水上に出てきます。

成長期



2019.8.1

ミズアオイの特徴であるハート型の葉が出て始めます。

開花



2019.9.10

一日花ですが、下から上に次々と咲く為、長い期間花を楽しめます。

結実



2019.9.20

結実後は、種子に袋をかけて、来年に向けて種子採取を行います。

【名勝渉成園保存修理事業について】

「名勝」とはすぐれた国土美の有様を様々なかたちで表現し、風致景観の緩衝を通じてその価値を発揮する記念物で、文化財保護法により指定されています。現在、渉成園内の建造物や庭園の傷みが進行するなど、本格的な修理が必要となっており、2014年（平成26年）度より保存修理事業を開始、10年間の計画で整備を進めており、植彌加藤造園も施工に関らせていただいております。

今回何故13年ぶりにミズアオイが確認されたのか？「名勝渉成園保存修理事業」の一環で印月池の水を抜き、耕耘したことで攪乱が起き13年間眠っていたミズアオイの種が発芽した可能性が高いと推測しています。



耕耘作業の様子

ミズアオイ以外にも、弊社の管理庭園ではマツバラシ（京都府絶滅寸前種）ギンラン（京都府絶滅危惧種）等の希少種保全に取り組んでいます。



マツバラシ



ギンラン

皆さまへのメッセージ

日本庭園は、庭師が手入れを行うことで、自然環境が維持され、多様ないきものの「すみか」としての役割を果たしています。庭園を訪問された際は、その造形美を鑑賞いただくとともに、お庭を形成する大切な存在である、いきものたちの息吹を感じていただければ幸いです。